

会 議 録

会 議	第 6 回 余熱利用の基本方針策定委員会		
日 時	平成 26 年 8 月 28 日 (木) 午後 2 時 00 分～午後 4 時 15 分		
場 所	豊中市伊丹市クリーンランド2階 大会議室	公開の可 否	Ⓐ・不可・一部不可
事務局	豊中市伊丹市クリーンランド総務室 総務チーム	傍聴者数	2 人
公開しなかった理由			
議 題	<p><議事次第></p> <p>1. 開会</p> <p>2. 審議</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) ①第 5 回策定委員会での指摘について (報告)</p> <p style="padding-left: 20px;">②第 5 回策定委員会から追加提案までの経過について (報告)</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 余熱利用形態の方向性について</p> <p style="padding-left: 20px;">(3) 事業メニュー個別シートについて</p> <p style="padding-left: 20px;">(4) 事業メニュー整理表について</p> <p>3. その他</p> <p>4. 閉会</p>		
配布資料	<p>1. 第 5 回策定委員会での指摘について【資料 1】</p> <p>2. 第 5 回策定委員会から追加提案までの経過について【資料 2】</p> <p>3. 余熱事業メニューの方向性の集約について (案)【資料 3】</p> <p>4. 事業メニュー個別シートについて【資料 4】</p> <p>5. 事業メニュー整理表 (案)【資料 5】</p>		
出席者 (敬称略)	<p><委員名簿 (名簿記載順) ></p> <p>高浪 龍平 大阪産業大学 工学部 都市創造工学科 博士 (会長)</p> <p>長澤 藤延 猪名川土地改良区連合 副理事長</p> <p>早川 友治 岩屋自治会 前会長</p> <p>石橋 成一 勝部連合町会 会計</p> <p>奥田 隆一 原田自治会 会長</p> <p>廣田 学 特定非営利活動法とよなか市民環境会議 アジェンダ 21 事務局長</p> <p>宮脇 かをる 伊丹市保健衛生推進連合会 会長</p> <p>飯島 正章 伊丹市在住</p> <p>伊庭 晃 豊中市在住</p> <p>西村 加代子 豊中市在住</p>		<p><事務局></p> <p>西垣 事務局長</p> <p>田村 事務局次長</p> <p style="padding-left: 40px;">他 各チーム長</p> <p>総務チーム企画グループ職員</p>

事務局

定刻になりましたので、ただ今より、第6回豊中市伊丹市クリーンランド余熱利用の基本方針策定委員会を開催させていただきます。皆様には、大変ご多用のなか、本委員会にご出席を賜りましてまことにありがとうございます。

はじめに、本日の配付資料の確認をさせていただきます。

(配布資料の確認)

資料はそろっておりますでしょうか。本日お持ちでない方がおられましたら事務局までお声かけください。

次に委員の皆様の出席状況を報告させていただきます。本日は10名全員の皆様にご出席いただいております。それでは会議を始めさせていただきますが、前回と同様に議事録作成の関係から、録音をさせていただきますことをご了承いただきますようお願いいたします。また、ご発言の際には挙手いただきまして会長より指名させていただきますからマイクをご使用の上、ご発言いただきますよう併せてよろしくお願い致します。それでは会長、会議の進行をよろしくお願いいたします。

会長

改めまして皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、また今回も雨で足元の悪い中、会議に出席いただきましてありがとうございます。本日2名の方が傍聴に来られておりますけれども、傍聴されている方につきましては、本会議の傍聴要領に従っていただきたいと思っております。ご発言はしていただけません。また資料を持ち帰ることもできませんのでご了解ください。

さて、前回の策定委員会では、平成25年度の内容について振り返りをしまして、今年度の答申に至るまでの流れをご確認いただきました。また、どんなメニューにするかということにつきましては、ブレインストーミングという手法を使って皆さんからたくさんのご意見をいただきました。ありがとうございました。前回の議事録につきましては、送付されていると思います。また、豊中市伊丹市クリーンランドのホームページでも公開されております。

さて、今回の次第に基づきますと、まず前回の宿題と申しますか、指摘事項について1点と、第5回の後、皆さんにお願いをしたのですが、追加の案についてご意見をうかがいましたので、その中身について確認させていただいてから、本題の審議事項に移りたいと考えています。今回に至るまでの経過につきましては、事務局とコンサルの方、そして私とで進めさせていただいておりますが、皆さんの意見をうかがいすることなく進めている部分もございますので、ご意見ありましたら是非おっしゃっていただきたいと思っております。

それでは、まず審議事項の一つ目、資料1「第5回策定委員会での指摘について」というところをご説明いただきますので資料1をご覧くださいようお願いいたします。前回の委員会でご指摘をいただいております、「公費を投入しないで採算が取れている余熱利用施設があるのかないのかを確認しましょう」ということになっておりましたので、そちらの報告を事務局の方からさせていただきます。よろしくお願い致します。

事務局

(資料1の説明)

会長

ありがとうございました。ご報告によりますと、結局黒字だといっているところであっても、独自で黒字運営をしているところというのは実質1施設しかないということになるわけですね。黒字だった施設は18施設あったのですが、結局、公費（指定管理料など行政からの実質的な補助）の投入を伴わない純粋な黒字施設は1施設だけということで、規模も結構大きいのですけれども、このような結果となりました。何かご意見ございますか。

(意見なし)

いかがでしょうか。今回余熱利用施設ということで、アンケート調査をした結果、黒字であった施設が18施設。公費等を投入していない施設の調査を行ったところ、純粋な黒字が1施設であったということでよろしいでしょうか。このような施設で純粋な黒字というのは難しいということがこれでわかったかと思います。アンケートの結果を精査したということで、こちらでご了解いただけますでしょうか。

はい。それでは他の審議もありますので次に行きたいと思います。

それでは、前回の委員会から今回までの流れについて経過をご説明いただきたいと思えます。よろしくをお願いします。

事務局

(資料2の説明)

会長

ありがとうございました。第5回の委員会の後から、追加提案を含めまして、これまでの流れをご説明いただきました。カテゴリの集約については、まずブレインストーミングの時に時間も限られていましたので、ざっくり表にまとめさせていただいておりました。ただ荒削りでありましたので見直すことにしました。見直す過程において、さらにキーワードを抽出できないか、集約できないかと色々話し合っ、事務局とコンサルと私の方でまとめさせていただきました。これもこちらでさせていただいているものですので、是非何かご意見等があったら、そこで修正をかけていきたいと思っておりますので、ご意見いただきたいと思えます。よろしくをお願いします。

まず、ご確認の1点目としてキーワードを抽出して集約させていただいたということですが、最初のブレインストーミングの時点では、「文化・教育」「環境」「安全」「少子高齢化」「コミュニティ」「サービス」とさせていただいておりましたが、皆さんからいただいたブレインストーミングの結果を踏まえてですね、別紙1の下にある、「集約化された想い」というところで、このようなかたちのご意見ではなかったかと集約いたしました。まずはこのキーワードを抽出して集約化したというところについてご意見をうかがいたいのですが、皆さんいかがでしょうか。

委員

今お話があったキーワードを抽出するお話ですが、環境カテゴリでテーマ1～3で抽出

したものに温暖化防止が入っていて、次の説明にも温暖化がありますが、そんなに出ていましたかという感じで。緑のことや自然のこととか出ていたのに、それを温暖化防止への関心という言葉に集約していったら、本当に環境のいろんな意見を適切にまとめたのかなと、少し疑問を感じたというのが見たところの意見です。

会 長 ありがとうございます。少し強引なところがありますが、最終的な方向性の集約は、次の議論になるわけですが、そこには反映していないのですが、その過程において出てきたご意見を飛躍解釈しまして、温暖化防止ということにさせていただきましたが、これに関して少し飛躍しすぎだというのであれば、身近な環境だけで留めておいた方がいいのかなと思うのですが。

委 員 いつ言おうかなと思ったのですが、次の議題に踏み込んでしまうかもしれないのですが、出された意見の中には、例えば、作るものをできるだけ環境に優しい建物にしようという箱ものの省エネみたいなものにつながっていくイメージのものが含まれています。そうではなく、作るものそのものが環境にいいものを作ろうということと、両方の意見が出ていると思うのですが、それをうまく表現できず、温暖化防止という言葉で整理されてしまっている。

結局そういう分け方にした上で、少し先走りますが、どうせ作るなら作ったものは少しでも環境に配慮しようと言いたいのか、作るものそのものが環境にいいものにしたいと言っているのか、資料3の留め置き方の疑問になっています。この前段階のテーマの時に強引にせざるを得ないのはわかっていますが、ちょっとどうなのかなと。

会 長 わかりました。

委 員 私はこの場面でこの言葉は嫌だとかいうのではなくて、言いたいのは資料3の整理の仕方に対して意見を言いたい。結局そういう意味で、前段のまとめ方が気にかかるということだけ留めておいていただいたら。別に言葉を変えてくださいというわけではないのです。

会 長 何か言葉にしてこんなのがいいよとかあれば、おっしゃっていただきたいのですが。

委 員 文化・教育に入っているのもどうなのかと思いますが、やはりごみとか自然とかそういう言葉は入ってこないのかなと単純に思うことではありますけれども。別に別紙4を直してくださいとかそういう意味ではありません。

会 長 過程ですので、これは資料としては残っていくかと思いますが、こちらで強引に飛躍したキーワードを抽出したということですので、先ほどのご意見のこともありますので、他の委員の方、ちょっとおかしいというところがあれば是非ご指摘いただきたいのですけれ

ども。

(意見なし)

会 長

それでは、今ご意見があった温暖化防止のところにつきましては、もう少し良いキーワードがないかどうか。あと、できたものにも省エネや環境負荷軽減、こういうものも答申の中に盛り込めるように検討していきたいというふうに思います。他にございませんでしょうか。

それでは次、もう1点の議題にあります、追加いただいた14件について特にご説明はしていただいているのですが、郵送でお願いしたにもかかわらず、14件もご提案いただいて非常にありがたく思っています。その中には非常に面白いと思うものもいくつかありまして、例えば飛行機のある公園であるとか、余熱は利用しないのですが、非常に魅力的な案が出てきたのではないかなと思っています。何か出てきた意見に関しては特にご意見ないかと思うのですけれども、これについては問題ないということで追加させていただきたいと思います。以上で資料2のご確認とご意見というのはこれでよろしいでしょうか。

それではですね、審議の方に入りたいと思います。次は余熱利用形態の方向性についてということで、ここがメインの審議となると思いますが、これまでの方向性を抽出するのはこちらでさせていただいて、さらに集約までのご提案という形で作成させていただいて、資料として事前にお配りしましたが、ここにつきましてはぜひとも皆さんと一緒にまとめていきたいと思いますので、これをたたき台としてご意見をうかがいたいと思っています。それでは集約案に至った経緯についてご説明をお願いします。

事務局

(資料3の説明)

会 長

ありがとうございます。この資料3にありますように集約については2段階で行いまして、まず1番に書かれている「集約された想いから」というのを文章化したところ。2番目としては集約したところの二つにわかれております。まずは1番目のところ、文章化したところについてご意見をいただきたいのですが、先ほども話がありましたように、資料2の別紙1を見ていただきながら、この抽出されたキーワードから方向性の文章、この文章でよいのかというところについてご意見をいただければと思います。よろしく申し上げます。

委 員

この資料3がそもそもよくわかっていなくて、これが最終的な答申になる時に、下のピンクの三つなのか、上の緑の六つなのか。文言までチェックしろというニュアンスなのか、それともこの三つを軸にメニューを選んでいくためのキーワード、要素としてみたらいいのか、まずそもそもこれをどういうふうに読んだらいいのかというのがよくわからない。文言については一つ一つ言いたいことはたくさんあるのですが、それを指摘すべきこと

なのか、そうじゃなくてあくまでも表を見ていく時の要素としてこの3つを軸として見るのか。

会 長 後者の方ですね。キーワード、方向性を集約したというのは答申に向けてどういった方向性で余熱利用施設を考えていくべきなのかということですね。それを判断する材料ですね。今回、先ほどもありました次に出てくる資料、4と5ですね。実際の事業メニューをどう評価するのかというのにあたって、方向性と合致していますかというようなところ。それに合っている内容かどうかを精査するための方向性の確認。さらにはこの余熱利用の利用形態に関する方向性をどうあるべきなのかというのを、今回ブレインストーミングで出された意見から集約して文章化しようと試みたということですので、先ほどおっしゃったこの文章どうこうというよりは、最終的に三つにまとめようとしたところが、重要な議論のポイントであって、全体的にこの三つでまとめていいですかというのが最終的な確認なのですが。まずは、ブレインストーミングで出された意見からキーワードを抽出して、それをブレインストーミングの時にカテゴリ化した六つにとりあえずは集約してみたということですが、まずそのあたりで問題はありますかということです。

委 員 そうであれば、言いたいことは一つだけで、先ほどの繰り返しですが、集約の第2段階のところでは書かれていることで、例えば作る建物をできるだけ環境配慮しましょうということだったら、この三つのキーワードは何になっても、環境に係わってきますよということでもいいのだと思うのですが、そもそもごみ焼却施設に併設する施設として、より環境に特化した施設もあるということの一つの軸としては入れなくていいのかと単純に疑問として感じるところです。

あと、大前提としてあるなら、いくつかメニューが並んだ時に、このメニューよりはこのメニューの方がいいかと、一般的な環境の解釈でいうとそっちが近いねということを経験した時にもし選ぶことがあるなら、こういう一覧表の三つと違うレベルでもいいから、環境の視点というか軸というか逆に入ってこなくていいのかという質問が出てきてしまいます。それなら、全体でやるかどうかは、決まったものの中で自然に配慮しましょうと、それでいいのではないかと思います。逆にそれよりも、いくつかやるためのキーの一つとして環境という言葉が残っていた方がもしかしたら選びやすいのではないかと思います。

会 長 よくわかりました。結局、最終的に答申としてまとめるにしても、まずこの出された事業メニューが非常に多いので、その中からいくつかにまとめていきたい。その中で、これらの想いに合致しているものを優先すべきだろうし、都市計画上整合していなければならないというのがあります。メニュー表のところでは説明がありますが、なるべく経済的で収支がいいものがあるというご意見もこれまでに話がありましたし、まとめていく上での一つの選択、目安というもので選んでいくための目安だと思います。最終的に全体的に環境に配慮しようというのは、後付けで出てくるかもしれませんが、もちろん経済性もよく考

えた方がいいというのもあとで出てくるだろうし、その辺りも別途これに付け加えていく形で判断材料としていかなければならないと思っています。ただ、現時点においては、多く意見が出されたもの、特にこのクリーンランドとしての機能や考えに基づいて、この三つに方向性として集約してみたということなのです。

ですから、今回ご議論いただくのは、環境については後でも話ができるというのは有効なご意見ですので、それを文章の中に入れるかは別の話なのですけれども、まずは出された事業メニューの目安として考える判断材料としての集約というのを、どのようにさせていただこうかということを進めているわけです。これについては、いかがでしょうか。

委員 最終的に三つにまとめていますけれども、その集約の第1段階についてはよくわかるのです、今ご説明していただいたように。ただ、その集約の第2段階、これについてはちょっとわかりにくいです。今もご意見もあったように、環境については例えばですけれども、「文化・教育・環境」でひとくくりができないものかなと思ひまして、一つのカテゴリで。と言うのも、文化・教育の中で緑に親しむことができ、という文言がありますからね。これもいえば環境であるわけですから、あまりこだわらずに、「文化・教育・環境」というくくりでまとめとして一つ。それからコミュニティとサービス。こういう形であればちょっと幅広く考えられるのではないかなという感じがします。

会長 はい、ありがとうございます。ここに書かれているように環境というのはクリーンランドにとっては大前提ですから、この方向性の集約とは別に環境というのをおいておくか、それとも方向性の集約の中で環境というのを盛り込んで集約化していくのか。これに関してご意見を皆さんからうかがおうと思うのですが。環境は、この方向性の集約とは関係なく前提としておいておくべきなのか、それとも集約されたまとめの中に環境という文字を入れておいた方がいいと思われるのか、どちらがいいかおうかがいしたいのですが、皆さんのご意見はございますか。

委員 環境と安全。地域の安全、身近な環境。特にこの言葉を残していただきたいと思います。

会長 ありがとうございます。はいどうぞ。

委員 元々ここができた段階で、常に環境というのは頭に残っています。煙であるとか、においとか、そのへんは常に皆さんが意識されてきたところだと思います。ですから、ここはやはり皆さんの関心が持てるような、そういう項目も必要だろうし、それは残しておいていただきたいと思います。

会長 ありがとうございます。いかがでしょうか。はいどうぞ。

委員 やはり、このクリーンランドの周辺が変わっていくのであれば、やはり環境を考えて、

今度は新しい形で、緑に親しむということが目標になってくると思うので、その大前提としては環境が必要になってくると思います。カテゴリとしては「文化教育」となっていますが、環境も残して、まとめの文章の中にも環境という言葉も付けておいた方がいいのではないのでしょうか。

会 長 ありがとうございます。はいどうぞ。

委 員 私も環境というキーワードを残した方がいいかなと思います。もうちょっと大きな話で答申に載せる内容として三つに集約されているのですけれども、どちらかというと6種類のキーワード、方向性が出てきたので、全部残してもいいと思っています。次の資料にも、資料5に詳しく書かれていると思いますが、この三つの集約されたキーワードに合致するかどうか判断されていますが、別にこの三つに集約したものに対して判断するだけじゃなくて、六つ全部に対して◎なり○なり△なりを付けた方が、想いというものをカバーしているのかどうか判断するという意味で残した方がいいと思ったのですが、三つに絞られた理由は何かありますか。

会 長 これは、なるべくなら事業メニュー案の数を絞りたいというのがあります。なので、方向性をなるべく絞った方が判断しやすいのではないかと思います。項目が多いと判断するのが大変になるのではないかなと思ひまして半分にしてみようかと、ちょっと強引だったのですが試みたわけです。それも、今ご意見がありました、皆さんにおうかがいしたいのですけれども、集約する必要があるのかなのかですね。せっかくブレインストーミングで出てきた意見ではありますので、この六つのまま、それぞれの出された事業メニューというのが適合しているのか、適合しない部分があるのかというのを見ていった方がいいのかもしれないというご意見ですね。どちらがよろしいでしょうか。はいどうぞ。

委 員 飯島さんがおっしゃったことに近いのですけれども、たとえば少子高齢化のところの子育てという言葉は、学習機能、子どもたちの教育となっていくと、分けなくてもつながっていくのかなというふうに思います。これはたぶん保育施設という意見が出たので少子・高齢化に入れたのだとは思いますが。色々こういうことを考えた時には、それぞれ分けるのではなくて、つながっていくところはあるのかなと。少しでも少なくしたいというのは逆になるかもしれないのですけれども、できるだけいろんな想いを盛り込んでいただきたいという気がします。

会 長 ありがとうございます。他にご意見ございますか。

委 員 追加なのですが、できるだけメニューを絞り込みたいという議論ですが、この委員会の場においてはなるべく多くのものを多くの基準で判断した方がニーズを捉えられるという意味で6種類残したらどうかということです。もちろん、答申のまとめの段階では選ん

だ結果、こういう意見が多数あって絞り込まれましたという見せ方であれば納得はできると思います。

会 長 ありがとうございます。いかがでしょうか。皆さんにおうかがいしたいのですが、はいどうぞ。

委 員 環境というのは、もちろん大きなテーマというのはよくわかります。全部環境が含まれているというのも理解できます。ただ、先ほどおっしゃったように三つに絞り込むことによって、よりわかりやすいやり方ができるのではないかなという話、すごく理解できるのです。あまり幅広くすると何のことかわからなくなってしまうことになると思っております。ただ、環境については先ほども言いましたように当然のことなのですけれども、言葉としては環境というのは残していただきたいなというふうに思います。

会 長 ありがとうございます。そうですね。その答申に向けての集約というのを今、諮っているのですが、集約の仕方についても集約してから答申にいくというのものもあるし、集約をあまりしないまま議論を進めて、その中から全部が合致するような色々な条件を満たしているものをいくつかピックアップするという方法もあるかと思えます。ですので、今ご議論いただいているようにあまり集約しない方がいいよというご意見もありますので、ちょっと皆さんからお伺いしたいのですが。この三つに集約することについてですね、六つのままでいいのか、三つにしてもう少し集約化して見やすくまとめていくのかというところで、どちらがいいかおうかがいしたいのですけれども、皆さんからおうかがいしましょう。

委 員 最初にも意見を言いましたが、環境は残してほしいということで、文化、教育、環境を最終的にひとつくりにしてはどうかという意見なのです。

会 長 それは、環境を入れておけば、まとめてもいいということですか。

委 員 そうですね、だからある程度絞り込んでいかなければ、なかなか分散してしまっただけで方向性が逆に見えてこない面もありますので、できれば最終三つにまとめておられますけれども、その中で環境は一つ文言として入れていただいて、今回、教育・環境とか、そういうくくりができればと思っています。

会 長 ありがとうございます。なかなか悩ましいところですが。

委 員 今回、こういうことが余熱利用を考える時に大事になるのでしょうか、僕の頭の中には余熱利用の施設を成功させるためには金額はどれくらい、黒字のところはどんなことをやっているのか、交通の便はどうか、お風呂がメインで主なプラスになっている要因ですよとか、そういうふうなのが出てくるのかなと思っていたのです。これが出きたときに黒

字になりますとなった時、これとどう関係があるのかとまだわからないのです。僕らが今考えているのは、皆さんが喜んでいただいているような、そういう施設を黒字になるように作るためには、ちょっとでもプラスになるようなデータが出てくるのではないかと思います。

会 長 具体的に話を進めるとそういう話になるかなと思うのですが、今回は具体的などころにいく前の段階で、そういった皆さんの想いから、人に集まってもらえそうな施設にするためにはどんな施設であるべきなのかという、非常に根本的なところの集約を行っておりまして、メニュー表も、後で出てくるのですが、その中には収益性も出てきますし、地域貢献性というのも出てきますし、その一つの前段階だと思っていただければと思います。

 例えば、文化、教育、コミュニティ、サービス、環境に配慮した施設であればたくさん人が来てくれるのではないかと、そういったまとめ方になってきているのですが、これについては、概ねご理解いただけますでしょうか。

委 員 はい、それで理解できます。

委 員 少なく集約された方がまとまると思うのですが、環境、安全という言葉を入れていただいた方がいいと思います。

会 長 ありがとうございます。安全については、絶対安全安心はありきだと思いますので、文言に入れるかどうかは検討させていただきたいと思いますが、前提にはなっていると思います。

委 員 私もこの中で検討している段階においては、この六つを置いておいて検討していくべきだと思います。その中で、最終的に答申の段階では、三つくらいがいいということであれば文言が変わってくることになるかもしれませんが、それまでは環境を含めて6項目で進めていくべきではないかなと思います。

会 長 ありがとうございます。

委 員 お話を聞いていて、長澤委員の「文化・教育・環境」にまとめるというのもすごくよくわかりますし、飯島委員の六つ全部をとというのもすごくよくわかります。逆にいうと、選びづらいところですね。いずれにせよ希望は2点あって、議論の過程の中で六つのキーワードが出てきましたということだけは、最後までちゃんと答申の段階で明らかにしておいていただきたいと思います。それから仮に「文化・教育・環境」とまとめて一つにするのであれば、先ほど、私が指摘した、緑に親しむというのが環境に係わっていく話なので、前のまとめ方、地球温暖化というキーワードが果たして適当だったのかと遡っていく

話だと思うのです。飯島委員の六つ残すものならば、少子高齢化などは、福祉の向上につながるというのが、本当に想いを集約した言葉になっているのかという話だと思えます。少子、高齢というテーマから出た話だと思っていて、これを福祉とまとめてしまうと、行政的には福祉施設を作るのかという意見になってしまいます。そうではなく、想いを生かすために六つ残すなら、考え直すことになるのかなど。だから、三つでも六つでもいいのですが、文言に係わってくるだろうというのが気にかかっているところです。

会 長 ありがとうございます。

委 員 本当に皆様のご意見よくわかります。三つか六つかと言われると、私もなるべく少ない方がいいかなという意見ではあるのですが、ただ皆さんのそれぞれの想いでどれも理解できますので、難しいなと思っております。

会 長 何か追加でコメントございますか。

委 員 この資料2を見させていただいて、まとめ方で思ったことが、この委員会が最初始まった時に諮問書をいただいております、これを読み返してみました。そうするとキーワードというか、こういう方式でやってください、方向性はこうしてください、というふうに、熱エネルギーを有効活用するために、効果的であり、経済的であって、持続可能で、地元にも還元できる、こういうキーワードが色々あったので、これも答申の方向性に入れるというか少なくとも資料5の各メニューを判断する材料には入れる必要があると思っています。

会 長 ありがとうございます。一応それを配慮した整理表になっているのではないかと思います。ですが、それについては不足部分が若干ありますので、それは改めてご説明いたします。

委 員 事業メニューを考える上ではその項目のことを考えながら、というのは必要だと思えますし、答申をまとめて行く上では絞っていくことも考えなければならないのですが、どちらも大切かと思えます。一つ気になったのはコミュニティの項目で「地域の賑わいが創造され、つながりや交流を豊かにする」ということなのですが、別紙4で追加提案を含めたものを見てみると、やはり「安らぎや休憩」への関心が強いと思えます。この別紙4というのは最終的に余熱利用の事業メニューで色々考えていったものですから、重視されるべきものだと思います。そうするとやはり三つにまとめた中でも、やすらぎというキーワードは入れておく必要があるのではないかと思います。また、このコミュニティをまとめていく別紙1なんかでは、住んでいる街とかクリーンランドについてというものも併せて「地域の賑わい」ということですが、重きとしてはテーマ3の「余熱利用事業メニュー」が一番比重が大きいと思えます。それが別紙4にもまとめられているので、そのあたりから考えていく必要があると思っています。

会 長 ありがとうございます。その温泉とかお湯とか、そのあたりのニーズに対するところが文言としてあまり反映されていない部分がありますので、それはまた考えさせていただきたいと思います。

委 員 私も環境という言葉を入れていただきたいです。やはり方向性を絞って行って、先ほどおっしゃっていた「文化・教育・環境」とまとめるというふうに、少子高齢化という言葉、コミュニティとか学習機能に入れていくとか、無くすのではなくて、まとめていく過程で集約するのが良いと思います。うまく集約できればいいなとは思っています。

会 長 ありがとうございます。それでは一応皆さん全員からご意見いただきましたが、集約してもいいというご意見と、集約しない方がいいというご意見にわかれております。ブレーストーミングで出てきた意見ですので、これは皆さんのご意見ですから、集約する、しないにかかわらず、なるべく皆さんからいただいたご意見を答申の方に反映できるようにするためにどのようにすればいいのかというのを、もう一度こちらで考えさせていただきたいと思います。基本的には皆さんの出された意見をどうやって答申に反映させていくのかというところについて、まとめることができるようであればまとめる。まとめられないようであれば六つそのままいくということで検討させていただきたいと思っております。また、ご指摘がありましたように、少子高齢化のところであるとかコミュニティのところであるとか、これが若干飛躍して文章化しているところと、あと足りない部分もございます。こちらもご意見を踏まえて修正を加えていきたいというふうに思います。それでよろしいでしょうか。また、もう一度議論をさせていただくということになるかと思っております。

それでは、次の個別シートについても、議題に上がっておりますので進めていきたいと思っております。これについては、今回出された案件73件全部をコンサルの方に詳細に調べていただきました。非常に膨大な資料になっています。これは全部見るのではなくて、こういうまとめ方で良いかという議論になると思っておりますので、これも今回この第6回のうちに皆さんからご意見いただき、修正が必要であれば修正してきたいと考えております。それでは説明をお願いします。

事務局 (資料4の説明)

会 長 ありがとうございました。個別シートについて資料4の説明でございました。先ほど、飯島委員からお話がありました諮問内容に沿っているかというところの判断なのですが、一応ここで網羅していると考えておまして、まずは、余熱利用に対しては効果的で経済的であるところなのですが、まず効果的というのは利用形態のところですね、どんな余熱を利用しているのか。あと、上から七つ目の効果ですね、これは効果的というところに当たると思います。あと経済的というのは八つ目の経済性のところ。持続可能なというのは総合的に判断しないとイケないものですので、ここについて記載はないですが、実現可能かというところについては触れておまして、これが持続可能性というところ

ろに関連しているのかなと思います。さらに地元還元につながる利用形態でいうところは地域貢献度に対応しているということになっておりまして。あと、実際に利用できるかというところが都市計画の整合というところを含めてそういう判断になっているかと思えます。

ご指摘のあった諮問書に対して合致する部分というのが判断できるような個別シートに、させていただいております。ただ、次の資料5については、まだそこまでまとめられていない状況です。今日の話を踏まえて更新しようという案で出させていただいておりますので、その一つ前の方向性の集約化とかまとめについて、皆さんから議論いただいておりますので、資料5についてはちょっとまた議論は別の話にさせていただきたいと思えます。現時点においては、皆さんからブレインストーミングで出していただいた事業メニューについて、個別シートということで1事業に対してA4サイズ1ページでまとめたのですが、このようなまとめ方でよろしいでしょうかということと、何か追加等あればご意見いただきたいと思います。いかがでしょうか。

委員

効果的というところが漠然としていて、どのようにまとめればいいのか考えたのですが、説明していただいた内容は理解できました。あと、もし追加で加えるなら、どのくらいエネルギーを使っているのか、その規模を指標にしても良いかなと思います。

もう1点は、持続可能というキーワードにマッチしているかどうかを判断するのはすごく難しいというのは私も思っておりまして、経済的に収益が成り立つなら持続可能というふうに考えるのか、それとも社会ニーズとしてすごくニーズが高くて意義があるのでこれはずっと続くものだというふうを選ぶのか。あとは、事業者をどこかに委託してどんどん規模が大きくなっていくという意味で持続できると考えても良いかもしれないし、もう一声言葉を入れても良いかと思いました。

会長

ありがとうございました。利用形態でどのくらいのエネルギーを利用できそうなのかということについては、もし計算ができそうであればするということになります。例えば一つ目の事業メニュー案、植物工場運営というところについては概要のところ熱量が書いてあります。なので、こういった熱量が算出できるものについては十分にエネルギーを利用しているのかどうかということについては判断ができるかと思えます。それがわかるように欄を設けるかどうかというのは、どれくらいデータが集まってくるかにもよりますが、それで検討したいと思います。他にございますか。

委員

質問ですけれども、経済性の中の光熱費の部分ですが、これは余熱の発電ではまかなえず、どうしても経費がかかるものなのですか。「必要熱量（電気換算）の20%」と書いてあるのですが、発電でまかなえるのかなと思っておりましたので、この点がよくわからないので質問いたします。

事務局

これにつきましては、いわゆる事業内容によって様々な電気の供給になるのですが、蛍

光灯とかいろんな施設で使われる場合も含めて、定格で常時持ってこないといけない場合や、不安定であっても構わない場合など、いろんな場合がありますので、これにつきましては一応必要熱量の20%程度は購入の電力ということでみておこうかと一定のルールを決めさせていただきまして設定させてもらったものです。

会 長 よろしいですか。他にございますか。

委 員 全般に関する話で二つあるのですが、一つは、それぞれ書いていただいた内容で利用者見込みの人数が入っていると思うのです。中には現在のここの施設の見学者に準じた、比較的現実味のあるなという人数を書いてあるものもありますが、多くはこの見込とはちょっと期待しすぎではないかとか、大きく出ているではないかというのも結構見受けられます。例えばバードパークを見てみると、年間6万人と書いているが、本当に両市、近隣から年間6万人も来るのだろうか。単年度収入9千万も見込んでいるが、結局プールも最初こうだったのではないかと思うのです。たくさん来ますよ、これである程度収支がわかりますよといったものが、結局それに合わなくて最後にはずっと赤字続きでしたよということになっていくので、クリーンランドのスタンスとしては、見直しました、昔の反省を活かして、今度は我々としてシビアなところで現実性のある人数を追及しているのですというのも一つの考えじゃないかと思います。ただ議会だとか、助成金、補助金をもらうには大きくしないといけない側面もあるとは思いますが。ここを見誤ると同じことを繰り返す懸念があるのではないかと思います。

あと、同じこのバードパークでいうと、収支が3300万の赤字となっていますね。だから収入と支出を除いたとして3千万少しを行政が負担しますよという想定なのです。これだったら収入も大きくてかつ年間コストも大きくてたまたま差引が3000万ですねというのと、そうではなくて実入りは少ないけれど、年間経費そのものは3000万くらいのももあります。同じ3000万でも、かけた時のリスクは、かたや従来と同じ損害で、もう一方は指定管理者に3000万で任せてしまったら、それだけで済む3000万があると思います。結局突き詰めると、クリーンランドはお金というものをどう思っているのか、どうまわしていくつもりなのかというのがある。それが、コメントで、赤字が、とか、黒字なら、とか。いや、そんなことわかっているけれど、公共がやる施設だから公共が一定の黒字にするために、収入だけでまかなえるところを狙うのではないでしょう。クリーンランドはそもそもどれだけの費用をこの施設に対してかけることが可能なのかという話だと思うのです。そこに立って、黒字や赤字のコメントを付けないと、このシートだけではほとんどのものが採算合いません、何を出してもだめということに読めてしまいます。けれど、1個1個突き詰めると大分意味が違うのではないかと考えていて、このへんをどう整理されるかなというところをもう少し考えていったらという意見です。

会 長 ありがとうございます。どのようにまとめていけばいいのか難しいところがありますが、同じ赤字でも幅が違ふと。事業規模によるということだと思っておりますが、提案された

個別事業に対して、その規模が大きくなるもの、小さくて済むものというはある程度わかるかと思います。それについては何かわかるような示し方ができればと思います。ちょっとそれは検討させてください。

委員 言い方が悪かったかもしれません。収支で、単年度収支▲で赤字がいくらかと、この書き方がいいかという問題です。裏を返せば行政の負担額が年間いくらか相当という書き方が、赤字黒字の議論だけじゃないのではないかなという意味です。

会長 それでも、事業規模が大きいものであればその変動が大きくなるから単年度赤字が大きくなる可能性があるということですね。

委員 それはもちろん。

会長 はい、わかりました。あと、規模に関してですが、これについては本当に時間が限られておりましたので前例のあるものから抜粋しています。おっしゃったバードパークについては神戸の花鳥園をベースにしているわけです。実際ここにどれくらい来るのかということまでは検討できずに人数を算出しているわけですが、ここをどうするかですね。ここをもっと現実的な数字に換算するのか、一応このままで、これくらいの規模だったらこの収支、負担が出てくる可能性があります、事業規模としてはこれくらいですよ、あくまでも例に基づいた事業シート、メニュー案ということで、これで止めておくのかというところですね。そこについては、ちょっと量が多いのでどうしたらいいのかというところですが、有望で最終的に答申案に上がってくるものについてはもっと精査すべきだとは思っております。ただ、現時点で73のメニュー、一旦これをさらに精査するというのは厳しいと思っております。そこはちょっと皆さんにご理解をいただきたいと思っております。

一旦これまでの例に基づいてシートを作成するにあたって、見えてきたものがあるわけです。皆さんにはまだ完全な形ではないですが、整理表もお渡ししております、これをじっくり見ていただくと皆さん感じたこともあると思います。ですので、ブレインストーミングで出していただいた事業メニューをじっくりまとめさせていただいて、それでどんな傾向にあるのかというのは理解できるような資料になっているのではないのかなとは思っています。

この個別シートについて追加または問題点を指摘いただいて、ご提案がありました精査というところにつきましては、より答申に上がってくるであろう優先度の高いものについては精査するというごことをご理解いただきたいのですが、それでいかがでしょうか。

委員 最終の答申案ですけれども、いわゆる具体的な事業メニュー案、これも明記する方向なのですか。最終の答申案のイメージがまだ見えてこないものですので、最終的に色々議論して、こういう方向性でいきますよと。ついてはこういう事業メニュー案が考えられます

とか、具体的に挙げられる方向でいくのでしょうか、教えていただきたい。

会 長 せっかく皆さんから出していただいた事業メニューですので、これらの事業名称というのは出させてもらおうと思っているのですが、それを何か一つにまとめるということはないです。今回方向性を集約するというのは、こういったものに合致するのがいくつかありますよ、例えば経済性に合致するものはこんなものがありますよ、地域貢献度が高いものはこんなものがありますよと、いくつかにまとめていく上での集約化を行っているというふうにご理解いただけたらと思います。

委 員 といいますのは、全体的に見させていただいて、いわゆる施設整備を伴う余熱利用方式、これについてはほとんどが赤字です。中には黒字のところもありますが、それで今までのやり方を見ればクリーンスポーツランドも非常に赤字、8000万～1億円くらい出ています。これは我々としては、非常にトラウマになっておりまして、施設型の余熱利用というのは、おそらく先ほども意見出ていましたが、甘く計算しがちで、結果的にクリーンスポーツランドもおそらく当初はそうだったと思います。結構入場者もあって、ある程度いけるといような形だったと思いますが、最終的には8000万～1億円の赤字が出たということで、我々もいくらなんでも公費を投入する形になりますので、なかなか耐えられない部分があります。その反省に立って、今、検討委員会をやっていると思いますので、またこの事業メニュー案で施設型の事業方式を提案しても、なかなかしんどいのではないかなという感じがありますので、そのあたりどういう方向性でいけばいいのかが私自身も悩んでいるところなのです。

会 長 ありがとうございます。施設型の余熱利用形態というのが、どうなるかということについては最終的には市が決めることだと思うのですが、皆さんと今回ブレインストーミングで出していただいた意見というのも非常に重要ですので、事業メニューとしては絶対答申には載せたいと思っています。それをやるかどうかはまた別の話ですので、答申には皆さんが出された想いというものと合致する施設はこんなものがありますよというようなご提案の仕方になるのだろうと思っています。

委 員 行政の方も、経済性だけではなくて政策として、これは大事だ、やるよ、という決意があれば、それはそれで大きな価値があると思います。非常に難しいところかとは思いますが。

会 長 ありがとうございます。そのあたりもうまく整理表の方にまとめられたらいいと思いますが、なかなかまとめ方が難しいと思っています。他にご意見ございませんでしょうか。

委 員 ちょっと質問ですけれども、事業メニューのNo. 26・No. 27、少子化と高齢化の問題

での施設で、気になったのは都市計画との整合性で、例えばNo. 26の場合ですと「都市計画法上、当該施設の立地はなじまない」、それから介護施設の場合でしたら、「都市計画法上、当該施設の立地はなじまない」ということは、結局議論したとしても建てられないのではないですか。そういう話になりますね。だとしたら議論の対象外として考えざるを得ないということですか。

会 長 はい、おっしゃるとおりです。企業的に収益が出るもの、またはその公共性の低いものについてはごみ焼却場の中に入れたいです。ですから、都市計画上は立地不可能ということになりますので、そういったところでふりにかかってくる。特に、たくさん会員を集めてそこで事業を展開するものについては黒字になります。ですから、傾向が出てくるのは実はそういう意味でして、この事業メニュー表で黒字になっているのは収益性型の施設。それについては、都市計画上設置できないということになりますので、基本的には赤字というか、かなり公益性の高いものしか、ここに施設として立地することはないということ。それはご理解いただきたいと思うのです。

委 員 一つの観点として少子化や高齢化と言っているのに、実際はそういう話をしても、この施設自体が実現しないということは、議論しても無駄なことだと思えます。

事務局 ブレーンストーミングの際に、自由な発想でいろんな事業メニュー案を出していただきたいという考えのもとに、こういう制約については一切事前に申し上げませんでした。実際は、ここクリーンランドはほぼ敷地の100%近くが、ごみ焼却場として都市計画決定されており、現実にはそれに制約されます。現在建っておりますクリーンスポーツランドが都市計画法上クリアした理由というのは、不特定多数が来場されて、ごみ問題、環境問題について広く啓発できるという点で、都市計画の許可が下りているということになります。ただ、具体的に今回メニューで出させていただきました保育施設であるとか介護施設になりますと、特定の方しか利用しないという施設になりますので、この啓発効果の点で都市計画法上は制限がかかってしまう。啓発施設とは見なされないというようなことになろうかと判断しております。ですから、自由な発想でお考えいただくために、あえてこういう制限のことは申し上げず、その点は申し訳なかったのですが、実際はそういう制約がございますのでご理解いただきたいと思えます。

会 長 よろしいでしょうか。

委 員 そうすると、先ほどからいろいろ話していましたが、結局、今、事務局が話された現実的な部分も検討段階で配慮せざるを得ないのではないかと気になりました。

会 長 ありがとうございます。その部分も含めてわかりやすくまとめようとしたのが資料5になるのですが、とりあえず皆さんの出された意見というのを尊重させていただきまして、

全ての案について調査をいたしました。そこから実際に実現可能性があるものをピックアップしていくということになると思います。ご理解いただければと思います。ただ、公益性が確保できて、都市計画上はクリアにならなかった場合ですね、土地区画を変更するという手段も最終的にはあるわけです。なので、100%できないというわけではないですけども、どれくらい重要なニーズがある施設なのかということにもよってくるのですが、それはまた皆さんでご議論いただければと思います。とりあえず今議論になっているのは、この個別シートのまとめ方についてですので、そこについて再度皆さんからご意見がございましたらうかがいたいと思います。いかがでしょうか。

委員 今の話とも関連するのですが、個別シートのところの真ん中の下のあたり、実現性というのがありますが、資料5にそれが出てきますが、ここでいう実現性は技術的に可能だという実現性しかないのですよね。でもそれは今おっしゃったみたいに、これは実際に保育園とかを建てるのは困難だと、これは実現が難しいというふうな読み方もあると思うので、ここでいう実現性とはなんなのか。浴場関係の組合と調整があるから、ここに実際に浴場関係は困難といったような、やりたくても実現性が低いわけですよね。ここでいう実現性は、実用可能性がなかったら実現性がないという、そういう見方での実現性に整理していったらどうかと思います。

会長 はい、そうですね。もうちょっと実現性というところはわかりやすくしたいと思います。基本的には技術的な部分と制約上ということで、ただ都市計画の整合性以外の部分でということになります。ですので、そこをもうちょっとわかるように、この実現性というのにはコメントを入れておくようにしたいと思います。

委員 介護施設の運営、メニュー27ですか。その中の実現性ですが、実用化済みとあるわけですね。というのは、他の清掃工場等で実現されているわけですよね、実現性が実用化済みというのは。ところが都市計画法上の制約があり実現は困難と、こういう形になっているんですが、先ほど事務局の方からの説明でよくわかるんですけども、例えば介護施設でも、特定の人だけではなしに、例えばデイサービスを含めると一般のどなたでも来れるというような解釈も成り立つわけでしょうから、そこは知恵の出どころでいける可能性もあるのではないかなと感じはしているんですけどね。例えば、この実用化済みという解釈、これは他の施設で実用化されている解釈としてとっているんですが、それであればちょっと正確性がないかなという感じがするんですが。

事務局 個別シートの方をまとめさせていただいたコンサルタントのものですが、この実現性というの、今回に限り技術的な面のみに注目した評価をさせてもらっております。というのが、ご指摘のように制度面であるとか、色々な制約を含めてこの実現性がいかにかということはこの個別シートでは評価すべきではないというふうに考えたというのが理由です。

会 長 ということですので、技術的な実現性のみに対する評価ということで、ご理解いただければと思います。よろしいでしょうか。皆さんがお考えになっている実現性とはちょっと違うかもしれませんので、ここをちょっとわかるようにまとめたいと思います。

 他にございますか。何か不透明な部分があれば言っていただけたらと思っております。

委 員 ちょっと確認ですけれども、個別シートは精査が、難しいという話だったのですけれども、メリットとかデメリットで、こういうものがあるのではないかとというのは委員会で議論すれば色々出てくると思うのですが、そういうものはどういうふうに更新していくのですか。

会 長 数が多いので全部についておうかがいすることは大変なことになりますので、こちらで一任させていただいている状況です。いくつか、都市計画と実現性等でふるいをかけていきますとだいぶ絞れてくるはずですので、絞られた部分に対してご意見をうかがうようにしたいと思っています。

委 員 そういう意味では絞り込む時に考えが不十分な状態で絞り込んでしまうのを避けるために、何か郵送で意見を募集するとか、じっくりとメリット、デメリットなり、評価の付け方とかを意見を募集してもいいのではないかなと思うのですけれども。

会 長 はい、ありがとうございます。そうですね、ちょっとそれはあとにさせていただきたいと思います。

委 員 今の話に関連するかもしれないですけれども、この後、答申とかこの2年間の委員会のことがまとめられると思います。そうした時に、資料編を付けていろんな過程のものを付けるとは思いますが、その検討のところの個別シート、何十個とある、実際これそのものを出すイメージなのですか、そこまでは出ないのですか。検討の過程として我々が見るためのシートとして理解をしておけばいいのか、どちらでしょうか。

会 長 おそらくはですね、あまりボリュームがある答申にはできないので、別添資料になると思われます。直接答申の後ろに付くというわけではなく、別の資料としてこれまでの検討に使用した資料という形になると思います。

委 員 答申というか、答申を受けたらそれに合わせて報告書をまとめて公表されると思うのですが、その公表される報告書の中にこれらが付くことについて、私はいいのですが、クリーンランドとして、説明会などで市民から言われるとか、そういう個所が散見されるのです。それを指摘すべきなのか、もういいのか、ということです。

会 長

ご指摘いただけるようであれば言っていたらと思いますので、修正していきたいというふうに思っています。そのご提案があったように、実は時間もきておりまして、今、皆さんにおうかがいしたいのは、今年度4回、2年間で8回という会議で計画はしていましたが、このブレインストーミングの結果、事業数が非常に多く、その精査が追いついていないこと、あと、それについて皆さんからのご意見をもっといただきたいということがあり、もし皆さんから了解を得られるようであれば、全9回、今年度5回ということにして、あともう一回延長して、この議論をさせていただきたいと思います。皆さんからのご意見をいただきたいのですが、了解いただけるのであれば、ここで終わりにしないで、もうちょっと重要な話ですので時間を割きたいと思うのですが、いかがでしょうか。ちょっと忙しいので後2回でお願いしたいという方、おられますか。

なんとかうまくスケジュールを組んで、皆さんが全員参加できるような形であと3回、時間をいただきたいのですが、よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

それでは時間もきておりますので、まとめの方にいきたいのですが、これまでの経過についてはご了解をいただいたのですが、利用形態の方向性についてはもう一度考え直したいというふうに思っております。それについてはこの回の後、事務局の方と考えた上で再度皆さんに案というのを提出させていただいて、ご郵送いたしますので、ご検討いただきたいというふうに思います。また、個別シートにつきましても、もう一度こちらで精査させていただくとともに、もし気になる場所があれば事前にメールまたは郵便で出していただけるとこちらもやりやすいですので、もし時間的に余裕のある方がいらっしゃったら事務局の方にご指摘を郵便またはメールでいただけたらと思います。さらに個別シートの精査内容につきましては次回の第7回に議論させていただきたいと。さらに資料5につきましても方向性の絞り込みに対応してきますので、これも今回ちょっと置かせていただいて、次回の議論とさせていただきたいと思います。いかがでしょうか。それでよろしいでしょうか。ですので、最初にお配りしたスケジュールですが、実際の答申素案及び答申案についての議論というのは、第8回、第9回に延期をさせていただきます。ですので、第7回につきましては今回の議論をもう一度しっかり話し合いたいというふうに思います。お手数ですが、ご出席たまわりますようによろしく願いいたします。何か、次回までの宿題等ご意見ありましたら是非今伺いたいののですが、何かございますか。もし、今回の会の後に何かございましたら言っていただけたら結構ですので、事務局の方にご連絡いただきますよう、よろしく願いいたします。

それでは、その他の連絡事項を事務局からお願いします。

事務局

本日も長時間のご審議、どうもありがとうございました。方向性等につきましては、再度ご審議が必要ということが確認いただけましたので、次回第7回、10月に予定しております審議会は、当初、答申素案の検討という予定にしておりましたが、これを変更致しまして本日の議論の続きですね、事業の方向性等について再度ご審議をいただけたらと思います。具体的な日時につきましては、また改めて皆様と調整させていただいた上

